

松本如石 （号は如石） 漢學者。明治九年七月十五日大分縣生れ、昭和四十年（二月）二十五日歿（一八六一—一九六五）。本名洪。明治一十七年上京して川合清丸の大道學館、大阪に移りて藤澤南岳の泊園書院に入る。漢文學會を興し、斯文會に合同して常議員となる。大東文化學院教務主任在職中争議が起り、辭職。昭和四年からは農林省囑託として米穀に關する研究に従事。その後、國士館専門學校教授、早稻田大學高等師範部教授等を務め、「上代北支那の森林」(昭和十七年刊)、支那歴史代親耕蠶考 (昭和十八年刊)等々著はした。戦後は「支那上代の市場」(周礼司市職解説) (昭和二十二年十月序、食糧管理局)、支那常平倉汎世考 (昭和二十六年刊)を出版。また家塾を開いて漢文の講義を續けた。

遺稿「漢文を讀む人のために」(昭和四十六年一月二十五日東洋文化研究所)には「懷旧談」を含む。

